

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
(教育目標) 心豊かで 自ら考え 学び合う 勝加茂っ子の育成 (めざす児童像) ・進んで考える子 ・思いやりのある子 ・最後までがんばる子	○確かな学力の向上『まなぶ』 ◇基礎学力の定着 ◇教職員の指導力の向上 ○豊かな心の育成『そだつ』 ◇自己肯定感を高める ◇豊かな人間関係づくり ○健康・体力作りの推進『つくる』 ◇基礎的生活習慣の確立 ◇体力づくり ○かかわり合う学校作り『ひらく』 ◇地域や外部の人材・資源の活用 ◇信頼される学校 ◇安全安心な学校

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
○国語では、登場人物の気持ちを読み取ることができる。 ○国語では、説明文の内容を読み取ることができる。 ○国語Aでは、ことわざの使い方について正しく理解している。 ○国語Bでは、物語を読み理由を明確にして自分の考えをまとめることができる。 ○算数では、図形の特徴や性質を捉えて考えることができる。 ○算数では、九九計算の立式や加法の結合法則を理解している。 ○算数Aでは、正五角形の性質を正しく理解している。 ○算数Bでは、条件を元にして平均を求める式を正しく判断できている。 ○国語Aでは、書かれている内容を読み取り文章を書くことに課題がある。 ○国語Bでは、文章から引用して書くことに課題がある。 ○算数Aでは、高さが等しい平行四辺形と三角形の面積の関係について課題がある。 ○算数Aでは、資料から表に表すきまりについて課題がある。 ○算数Bでは、条件に合った計算式を立てることに課題がある。 ○算数Bでは、示された式の数値の意味を理解し記述できることに課題がある。	【5年】 ○時間を決めてテレビを観ている児童は県平均を下回っている。 ○平日の家庭学習の時間は県平均よりも上回っている。 ○読書についてはやや下回っている。 ○あいさつをしている割合はかなり高くなっている。 【6年】 ○平日に家庭で1時間以上学習をする割合は高くなっている。 ○話し合い活動では話し合う内容を理解し自分の考えを伝えられる割合が高くなっている。 ○平日にゲームをする時間が少ない児童の割合が低くなっている。 ○テレビやゲームの時間のルールを決めている児童の割合が低くなっている。

成果

○算数の授業づくりについての研究を昨年度より始め、自分の考えを持ち表現する力を育成指導を行っている。
 ○学校のきまりを守るとうする規範意識は高い。
 ○6年生は家庭学習を行っている児童が高くなっている。
 ○6年生はことわざなど言語活動を行い成果がみられている。
 ○5年生は説明文や物語の内容を読み取れる力が上がっている。
 ○5年生は図形の定義や性質を正しくおさえている。
 ○4年生は基礎的な計算問題を解く力が上がってきている。
 ○3年生は場面の様子を読み取ったり内容を読み取ったりする力が上がってきている。
 ○3年生は文章問題を読み解き立式して解く力が上がっている。

課題

○平日の読書時間がやや少ない。
 ○メディアに関わる時間が長い児童が見られる。
 ○3年・5年は基礎的・基本的学習の定着が見られるが、4年・6年は基礎的・基本的学習の定着が不十分な児童が見られる。
 ○国語・算数ともに活用型の問題を苦手としている。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
・本を読む機会を大切にすること。	・読書量について年度末に。	・全学年、本を読むことを進んで行う。	・読書週間の実施 ・図書委員会の活動促進や本読みカードの活用 ・朝読書の時間や読みきかせボランティアの活用	・図書委員会を中心に読書週間を実施し進んで読書に取り組むことができた。 ・毎週木曜日の朝、朝読書や読み聞かせを行うことができた。	A	・図書室を訪れたりぶつくまるを利用したりして本を読もうとする意識が高まり、1年間で100冊を超える読書を読んだ児童が観察された。	A	・次年度も読書を身近に感じ本を読もうとする意識が向上するように図書室の充実や読み聞かせボランティアの活用を進める。
・算数における基礎学力が定着すること。	・学期ごとに算数の定着度をみていく。	全学年、基本的な計算ができるようになり、四則計算の仕方や利用ができる。	・朝学習の時間に繰り返して計算問題や文章問題に取り組む。 ・学習後等に問題データベースを利用して適宜学習のふり返しを行う。	・毎週水曜日の朝、算数の学習に取り組む基礎学習の定着につなげることができた。 ・学習のふり返しに適宜問題を補充することができた。	A	・朝学習を通じて基礎学習の充実を図ることができ、力をつけて前向きに学習している児童が増えた。	A	・今後も朝学習で算数の基礎が身につくように計算問題や文章問題に取り組む、学力の充実を図る。
・テレビやゲームやなどメディア等の時間を増やさない。	・学期ごとに確認すること。	・ノーメディアにチャレンジし、日常におけるメディアの時間を意識づけし家庭での過ごし方を家族で見直す機会を作る。	・毎学期ごとに勝北地区で「ノーメディアにチャレンジ」週間を設定すること。	・1・2学期に勝北地区でノーメディアの取り組みを行い、家庭での意識向上につなげることができた。	A	・年間を通じてノーメディアにチャレンジし、家庭でメディアから離れたときにすることを考え、家事等を行っている様子が見られた。	A	・今後も家庭でメディアについて考えていくことができるように、学校から啓発活動が続けていく。

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標のある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

○県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善の取り組み
 ○家庭学習の手引きの共通化
 ○「ノーメディアにチャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家族で見直す機会を作る。(勝北中ブロックで同期間に取り組む)
 ○①靴揃え②チャイム着席(教職員も、チャイムに始まり、チャイムに終わらせる)

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○家庭学習の手引きをもとに学級懇談や個人懇談などで呼びかける。
 ○ノーメディアの取り組みを家庭を巻き込んで行う。